

お・葬・式 便・利・帳

会葬者様用
(ご葬儀のマナー)



目次

I. ご臨終の知らせを受けたら

II. お通夜・お葬式に参列する

III. すぐに弔問できない場合

I. ご臨終の知らせを受けたら

○故人様との間柄によって立場や状況を判断します

●近親者・身内の場合

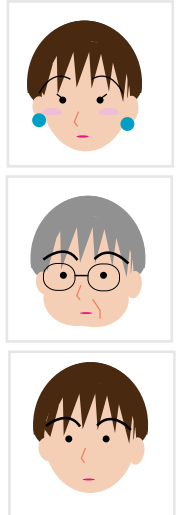
すぐに駆けつけます。
服装は地味な平服を着用し、手伝いを申し出ましょう。

●友人・知人の場合

親しい間柄なら、地味な平服ですぐ駆けつけ、人手が足りないようなら手伝いを申し出ましょう。

●会社関係の場合

基本的に会社の方針に従いますが、同僚や親しい関係で弔問したい時は、会社に事情を話し、了解を得てから駆けつけましょう。

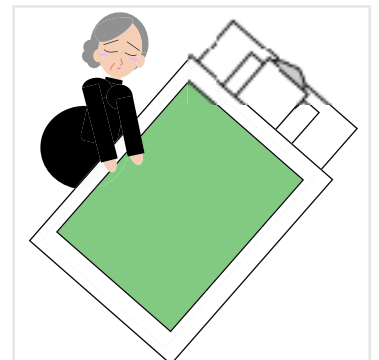


○故人様との対面

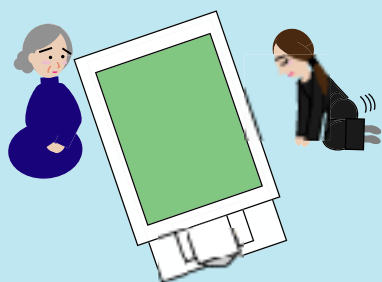
●ご遺族様より申し出があれば、慎んで受けます。

●自宅など弔問した際、ご遺族様から故人様の対面を勧められた場合は、「ありがとうございます。お別れさせていただきます。」とあいさつをして対面します。

※一般的には故人様との対面はご遺族様側から勧められて行なうものです。自分からは言い出さないのがマナーです。

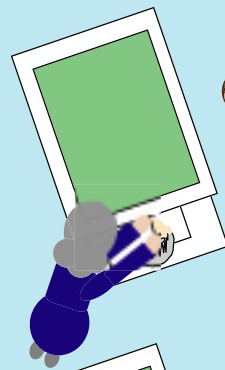


対面の仕方



1

腰を落として個人の近くまで進み、枕元の30cmくらい手前まで来たら、両手をついて一礼。



2

遺族様が白い布を外したら、両手をついたまま一礼。



3

両手を胸の辺りで合わせ合掌し、故人様の死を悼む。



4

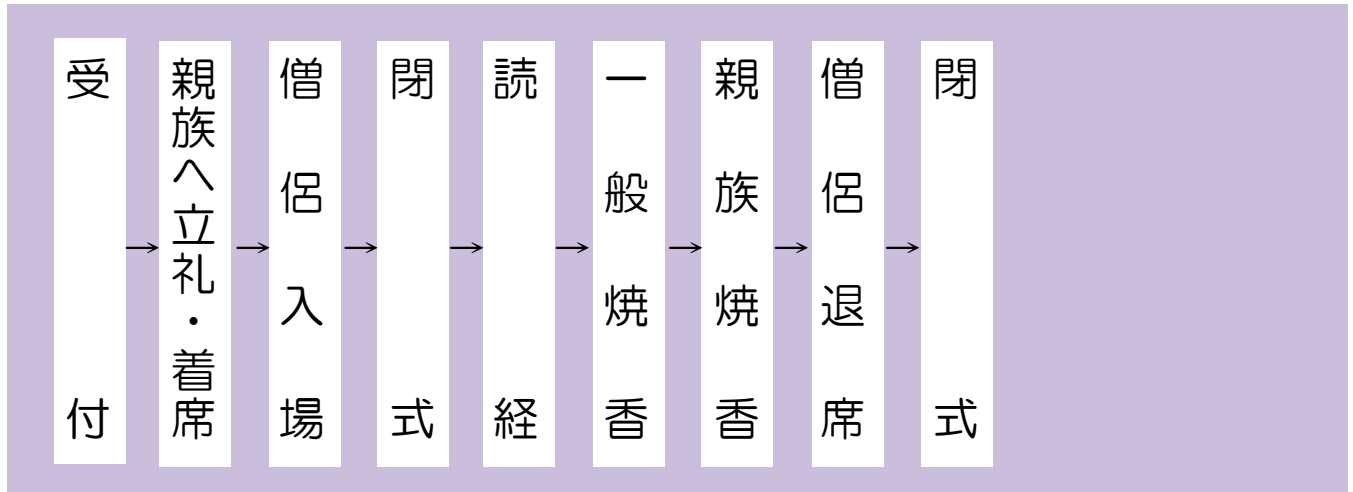
ご遺族様に「おだやかなお顔ですね。ありがとうございました」などと、いたわりの言葉を述べ、一礼して退席。



Ⅱ. お通夜お葬式に参列する

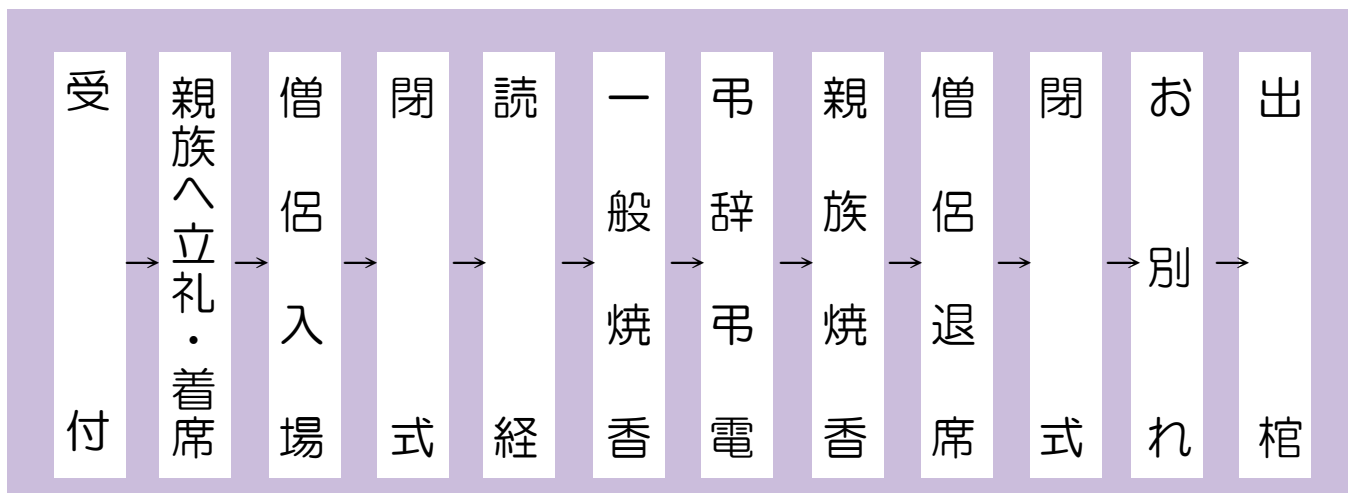
○お通夜

故人様を葬る前にご家族・知人などが集まり、終夜なきがらのそばで過ごし、冥福(めいふく)を祈ること。



○ご葬儀

故人様を葬る儀式のこと。



※「一般焼香」等流れにつまましては地域によって又は喪主様のご意向によって変わることがあります。

Ⅱ. お通夜お葬式に参列する

○服装

お通夜は、ご親族様や故人様と親しかった友人・知人などが訃報を受け、取り急ぎで弔問にうかがうといったことから、喪服ではなく地味な平服で構わないとされてきましたが、最近ではお通夜だけに参列する弔問客も増えてきているようで、その場合は略礼服の着用でも構いません。一般的なご葬儀での服装をご紹介します。

●男性

スーツ

シングルでもダブルでも構いません。
シャツは白が基本で、柄物は避けましょう。

ネクタイ

黒無地が基本で、結び方に決まりはありません。

靴下

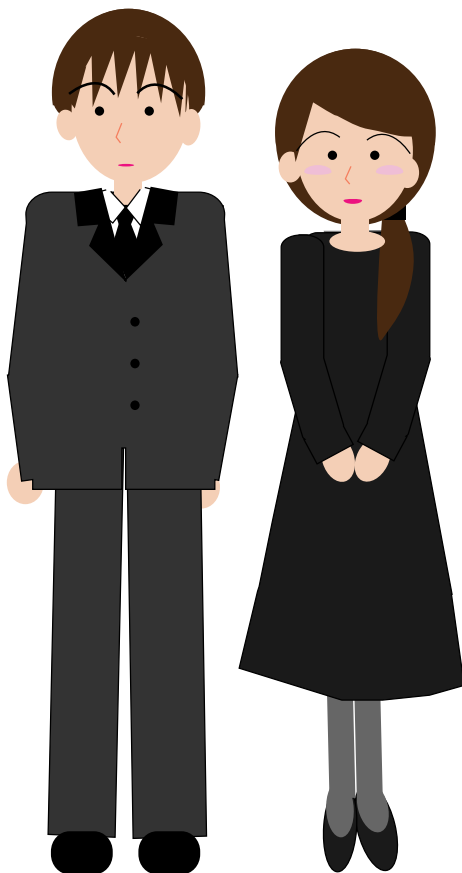
黒無地が基本で、柄物は避けます。

靴

光沢のない黒が基本で、スエード、金具がついている物は避けます。

香水

控えることがマナーです。



●女性

髪型

黒が望ましく、すっきりさせます。

メイク

派手にせず、自然な感じで。マニキュアも目立たない程度なら構いません。

スーツ・ワンピース

地味でシンプルな物を選びましょう。夏でも肌を露出させる服装は避けます。

アクセサリ

アクセサリは結婚指輪(婚約指輪)以外は身に付けないのがマナーですが、パールのネックレスを身に付ける場合は、一連の物を選びます。(二重は重なる意味で弔事では厳禁)

バック・小物

最低限の小さく地味な布やスカーフの物が基本で、殺生を連想させる製品は避けます。

靴(足元)

必ず、ストッキング(黒色・肌色)を履き、「ミュール・サンダル」などの靴は避けます。

●子供

学生は、男女ともに制服が喪服となります。無ければ黒かグレーっぽい地味な服装を選びます。
靴は黒か白いものを使用します。

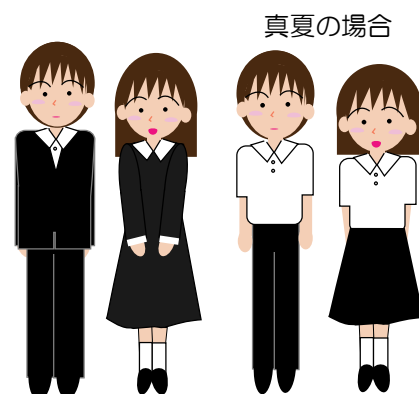
真夏の場合

・男子

白のシャツに黒ズボンと黒靴

・女子

白のブラウスに黒のスカート、黒靴



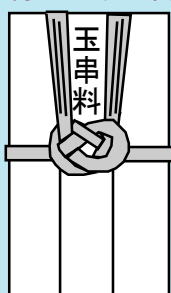
Ⅱ. お通夜お葬式に参列する

不祝儀袋の表書き

不祝儀袋の表書きは宗教や宗派によって異なります。
一般的なものをご紹介します。

不祝儀袋の表書きは宗教や宗派によって異なります。
仏式弔事の場合、「御香典」が広く使われます。また、金額も故人様との関係、葬儀の規模、弔問者の年齢、社会的地位などによって、さまざまです。
不祝儀袋のマナーをよく知り、失礼のないようにしましょう。

不祝儀袋の種類



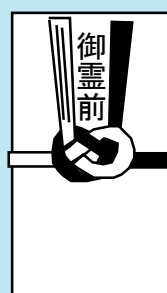
神式

水引：銀の水引を使います。



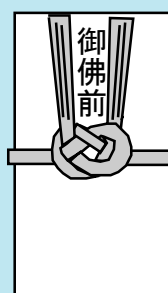
キリスト教

水引：一般的に水引は付けてませんが、付けてもかまいません。



仏式

水引：黒と白が一般的ですが銀と白や黄と白も使われています。

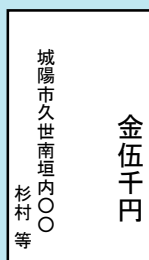


表書き：「御玉串料」とします。
他にも「御榊料」「御神饌料」等することもあります。

表書き：一般的に「御花料」「献花料」と書きます。

表書き：「ご霊前」が最も多いようです。他にも「御香奠」とすると、仏式で共通に使えますが、浄土真宗の場合は「御仏前」や「御香料」と書きます。

裏



裏に金額、住所、名前を書きます。

表



表には何も書きません。

不祝儀袋の中包み

表側：何も書きません。

裏側：金額、郵便番号、住所、名前を書きます。旧字体を用いるのが正式ですが最近では略式(「五千元」など)でも問題ありません。略式で金一万円は旧字体では金壹萬円となります。

●席に着きます。

通夜の会場に入る時は、一礼して席まで進み、案内に従い着席をして開会を待ちます。

- ・席次を決められている場合 案内に従います
- ・席次が決められていない場合 前から詰めて座ります

※都合で早めに退席する時や、年配者が多い時、遅れて来た時などは、末席に座ります。

Ⅱ. お通夜お葬式に参列する

○受付～焼香

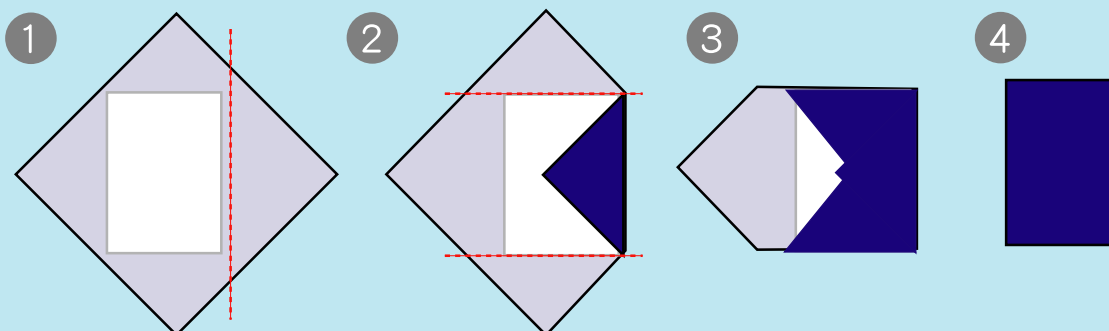
- 受付を済ませ、香典を渡します。
式場に着いたら、芳名帳に住所と氏名を記載します。
 - ・会社関係の場合 会社名と会社の住所
 - ・個人の場合 個人名と個人の住所受付の方にお悔やみの言葉を述べ、香典を渡します。

香典を渡すタイミング

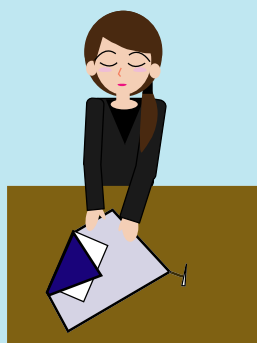
受付で記帳をしてから渡します。

香典は袱紗に包んで持って行きます。
受付で記帳をしたら、袱紗を包んだ順番とは逆に開いて香典を台の上に置き、
袱紗は軽くたたんで手前に置きます。
受付係の人にお悔やみの言葉を述べ渡します。

袱紗のたたみ方



渡し方



袱紗の包み方の逆、
④→①で開
きます。



袱紗を軽くたたんで
手前に置きます。



受け付ける人向きにして、
お悔やみの言葉を伝え
て渡します。

お悔やみの言葉の例

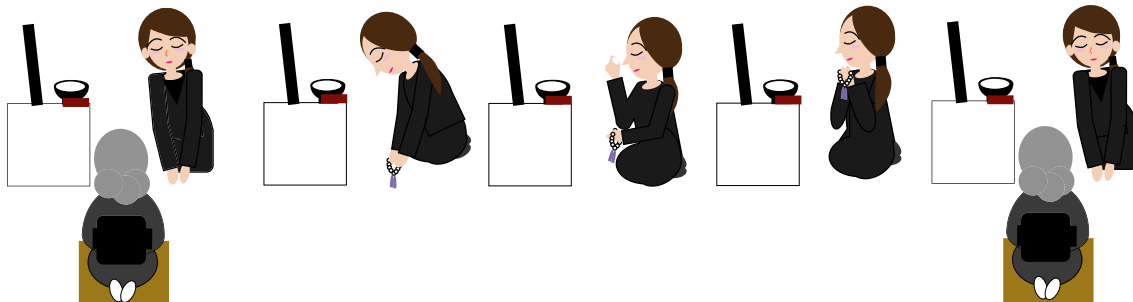
「この度は、ご愁傷様でございます。」
「この度は、突然のことで、心からお悔やみ申し上げます。」

Ⅱ. お通夜お葬式に参列する

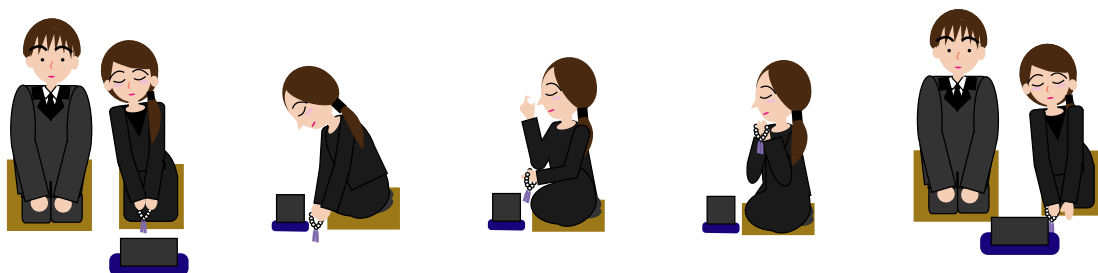
●焼香します。

焼香には以下のような種類があります。宗派や地域によって、線香の本数や抹香の回数は多少異なりますが、無理に喪家の宗派に合わせる必要はなく、一般の弔問・会葬者はあまり作法にこだわることはありません。

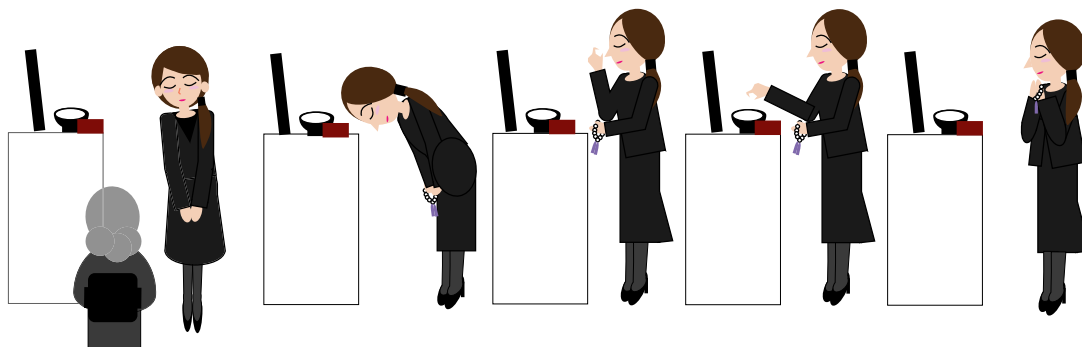
座礼焼香 畳敷の式場の場合に多く用いられます。焼香は正座をして行ないます。



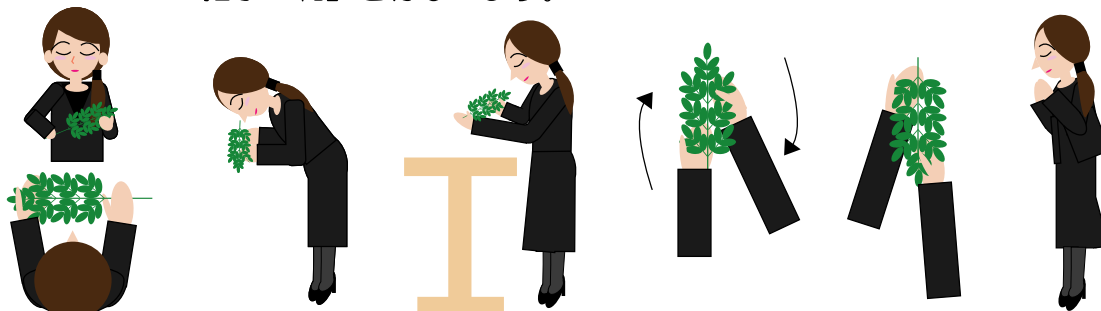
回し焼香 座ったまま焼香炉と呼ばれるお焼香をする箱を隣の人に順番に渡しながらかつて焼香です。椅子の場合は自分の膝の上に置いてお焼香します。



立礼焼香 椅子席の場合に多く用いられます。まず、喪主様やご親族様がお焼香をし、その後参列者が順番にお焼香をします。



玉串奉奠 (たまぐしほうてん) 神式の葬儀で行われることで仏式と違い玉串と呼ばれる榊の枝葉をお供えます。もし、玉串が用意されていない場合は、神前で「二礼二拍手一礼」を行ないます。



Ⅲ. すぐに弔問できない場合

代理人を立てるか弔電を送り、後日弔問に訪れましょう。

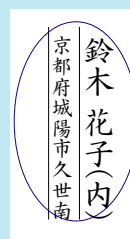
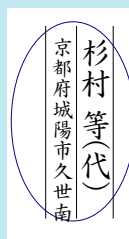
出張や入院などのやむを得ない理由で、すぐに弔問できない時は、「代理人を立てる」「弔電や手紙を送る」などの方法で、お悔やみの気持ちを伝えます。代理人を立てる場合は、特に故人様と面識がなくてもかまいません。ただし、弔問に訪れた際、応対してくれた人に代理の理由を述べるようにしましょう。

弔電を送る時は、宛名は喪主様にし、故人様の自宅か通夜・葬儀が行われる寺院や葬儀会場等に、葬儀の前日に到着するようにします。喪主名が確認できない時は、故人様の名前の後に続けて「ご遺族様」と書き、差出人はフルネームで書きましょう。弔電を送った後は、できるだけ早く(1週間以内くらい)香典を持参して弔問するようにします。

代理で出席する場合

代理で参列する時は、受付で誰の代理なのかを伝えてから、香典を渡します。記帳の際、上司の代わりに参列する時は、上司の部署名、役職名、名前を書いた下や横に小さく「代」と書きます。妻が夫の代理で参列する時は、夫の名前の左下に「内」とだけ書きます。

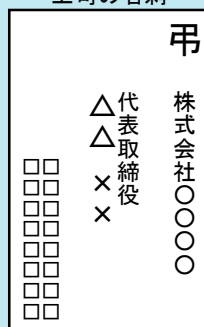
本人の名前を書いた下や横に「代」と書きます。



妻が夫の代わりに参列する時は、夫の名の下に「内」と書きます。

上司の代理で記帳する際、上司から預かった名刺を渡す時は「弔」、自分の名刺を渡す時は「代」と、右上に書きます。名刺が横書きの場合は、左上すみに小さく書くと良いでしょう。

上司の名刺



自分の名刺

